入試に見る識別問題

- 1 a～eの□の文法的説明として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つ選び、その番号を記入せよ。
- a 夢のやうなることどもを承る□、物もおぼえでなむ。
 b 思ひやりきこゆるも、思すらむ□まさりてなむ。
 c 人も寝静まり□ければ、
 d ほのか□聞こゆれば、
 e いかなることにて、かくはしたまふ□かあらむ。
- ① 断定の助動詞 ② 完了の助動詞
 ③ 形容動詞の活用語尾 ④ 副詞の一部
 ⑤ 格助詞 ⑥ 接続助詞
- (西南、法・人間科学、08)

- 2 人しれぬわが通ひ路の関守は
 よひよひごとのうちも寝ななむ
- ・右の和歌の傍線部「寝ななむ」について、
 イ 品詞分解するといくつに分かれるか、語の数を算用数字で記せ。
 ロ この中の助動詞を抜き出し、終止形で示せ。
 ハ この助動詞の文法上の意味を記せ。
- (福大、人文・経済・商、08)

- 3 次の文の傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。
 …ある時に仰せられけるは、「蠟かまきり 蠅の睨くらべといふなる事こそ、興あることにてあるなれ。いざこの事試みんとて、…
- ① 天の原ふりさけ見れば春日なる
 三笠の山に出でし月かも
 ② ただ物をのみ見むとするなるべし
 ③ 十三になる年、上らむとて、九月三日門出して
 物語の多く候ふなる、ある限り見せたまへ
 ④ 心細げなる有様、いかで過ごすらむといと心苦し
 (同志社、法・文化情報、08)

- 4 傍線部の「べき」の文法的な意味を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記入せよ。
 上東門院、紫式部を召して、「(私は大齋院に) 何をか参らすべき」と仰せられければ、…
- ① 推量 ② 当然 ③ 適当 ④ 命令 ⑤ 可能
- (西南、法・人間科学、07)

- 5 a・bの助動詞の助動詞の文法的意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。
 ・いさ知らずなほ憂きかたの又もあらば
 この宿とてもしのばれやせん^a
 ・おのおの目おし拭ひ、鼻すすりあへる気色ども…
 ① 受身 ② 尊敬 ③ 自発 ④ 可能 ⑤ 完了
- (中村、栄養科学、08)

- 6 a～hの□のうち、サ行変格活用・形容詞の一部・過去の助動詞、のいずれでもないものが二つある。それはどれか。正しい組み合わせを、次の①～⑤の中から一つ選べ。
 a かの人の入りに□方に入れば、塗籠あり。
 b あなおそろ□。
 c 「音□給へ。」とのたまふ。
 d かうあさましき住まひ□侍れば、訪ふべき人もなきに、
 e 「うときより」と□も言ふなれば、
 f おぼつかなきこそ頼も□かなれ。
 g 「誰と聞こえ□」などのたまふ。
 h いとほのかにかき鳴ら□てゐたれば、
- ① aとd ② bとe ③ cとf
 ④ dとg ⑤ eとh
- (センター、00本試)

- 7 傍線部a・bの「の」の文法的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。
 今は昔、平中といふ色好みaの、いみじく思ふ女bの、若くうつくしかりけるを、妻のもとに率て来て置きたり。
- ① 主格を表す格助詞 ② 同格を表す格助詞
 ③ 連体修飾格を表す格助詞 ④ 連用修飾格を表す格助詞
 ⑤ 準体格を表す格助詞
- (筑女、文、06)

- 8 波線部a～cの文法的説明として正しい組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
 ・我には、定まれaる夫侍り。
 ・「いかなる人bにや」と尋ぬれば、
 ・送りcし者に右のあらまし語り、
- ① a 自発の助動詞 b 格助詞 c 過去の助動詞
 ② a 自発の助動詞 b 断定の助動詞 c サ行変格活用の動詞
 ③ a 下二段活用の動詞の一部 b 格助詞 c サ行変格活用の動詞
 ④ a 完了の助動詞 b 断定の助動詞 c サ行変格活用の動詞
 ⑤ a 完了の助動詞 b 断定の助動詞 c 過去の助動詞
- (福教大、前期、07)

9 次の文の傍線部を現代語訳せよ。
 (昔、ある人が鹿の殺生を禁じたことがあったが、その話を)頼朝聞こしめし、「それは、平氏の類にて、かやうの善事をなしけるにや。」とて、…

(福教大、前期、07)

9				2	1
		a		イ	a
	7		4		b
	a	b		ロ	c
					d
	b			ハ	e
			8		

得点 50

() (組) () (番) (氏名) ()

入試に見る識別問題

- 1 a～eの□の文法的説明として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つ選び、その番号を記入せよ。
- a 夢のやうなることどもを承る□、物もおぼえでなむ。
 - b 思ひやりきこゆるも、思すらむ□まさりてなむ。
 - c 人も寝静まり□ければ、
 - d ほのか□聞こゆれば、
 - e いかなることにて、かくはしたまふ□かあらむ。
- ① 断定の助動詞 ② 完了の助動詞
 ③ 形容動詞の活用語尾 ④ 副詞の一部
 ⑤ 格助詞 ⑥ 接続助詞
- (西南、法・人間科学、08)

- 2 人しれぬわが通ひ路の関守は
 よひよひごとのうちも寝ななむ
- ・右の和歌の傍線部「寝ななむ」について、
 イ 品詞分解するといくつに分かれるか、語の数を算用数字で記せ。
- ロ この中の助動詞を抜き出し、終止形で示せ。
 ハ この助動詞の文法上の意味を記せ。
- (福大、人文・経済・商、08)

- 3 次の文の傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号を記せ。
- ：ある時に仰せられけるは、「蠟かまきり 螂の験くらべといふなる事こそ、興あることにてあるなれ。いざこの事試みんとて、：
- ① 天の原ふりさけ見れば春日なる
 - ② ただ物をのみ見むとするなるべし
 - ③ 十三になる年、上らむとて、九月三日門出して
 - ④ 物語の多く候ふなる、ある限り見せたまへ
 - ⑤ 心細げなる有様、いかで過ごすらむといと心苦し
- (同志社、法・文化情報、08)

- 4 傍線部の「べき」の文法的な意味を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記入せよ。
- 上東門院、紫式部を召して、「(私は大齋院に) 何をか参らすべき」と仰せられければ、：
- ① 推量 ② 当然 ③ 適当 ④ 命令 ⑤ 可能
- (西南、法・人間科学、07)

- 5 a・bの助動詞の助動詞の文法的意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。
- ・いさ知らずなほ憂きかたの又もあらば
 この宿とてもしのばれやせん^a
- ・おのおの目おし拭ひ、鼻すすりあへる気色ども：：
 ① 受身 ② 尊敬 ③ 自発 ④ 可能 ⑤ 完了
- (中村、栄養科学、08)

- 6 a～hの□のうち、サ行変格活用・形容詞の一部・過去の助動詞、のいずれでもないものが二つある。それはどれか。正しい組み合わせを、次の①～⑤の中から一つ選べ。
- a かの人の入りに□方に入れば、塗籠あり。
 - b あなおそろ□。
 - c 「音□給へ。」とのたまふ。
 - d かうあさましき住まひ□侍れば、訪ふべき人もなきに、
 - e 「うときより」と□も言ふなれば、
 - f おぼつかなきこそ頼も□かなれ。
 - g 「誰と聞こえ□」などのたまふ。
 - h いとほのかにかき鳴ら□てゐたれば、
- ① aとd ② bとe ③ cとf
 ④ dとg ⑤ eとh
- (センター、00本試)

- 7 傍線部a・bの「の」の文法的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
- 今は昔、平中といふ色好みaの、いみじく思ふ女bの、若くうつくしかりけるを、妻のもとに率て来て置きたり。
- ① 主格を表す格助詞 ② 同格を表す格助詞
 ③ 連体修飾格を表す格助詞 ④ 連用修飾格を表す格助詞
 ⑤ 準体格を表す格助詞
- (筑女、文、06)

- 8 波線部a～cの文法的説明として正しい組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
- (センター、08本試)
- ・我には、定まれaる夫侍り。
 ・「いかなる人bにや」と尋ぬれば、
 ・送りcし者に右のあらまし語り、
- ① a 自発の助動詞 b 格助詞 c 過去の助動詞
 - ② a 自発の助動詞 b 断定の助動詞 c サ行変格活用の動詞
 - ③ a 下二段活用の動詞の一部 b 格助詞 c サ行変格活用の動詞
 - ④ a 完了の助動詞 b 断定の助動詞 c サ行変格活用の動詞
 - ⑤ a 完了の助動詞 b 断定の助動詞 c 過去の助動詞

- 9 次の文の傍線部を現代語訳せよ。
- (昔、ある人が鹿の殺生を禁じたことがあったが、その話を)頼朝聞こしめし、「それは、平氏の一類にて、かやうの善事をなしけるにや。」とて、：
- (福教大、前期、07)

<p>9 このよう<small>な</small>よ<small>い</small>行<small>い</small>をした<small>の</small>だ<small>ら</small>う<small>か</small>。</p> <p>「このよう<small>な</small>」2点、「よ<small>い</small>行<small>い</small>をした<small>の</small>」2点、「断定2点、推量2点、疑問2点。計10点。」</p>	6	5	3	2	1
	⑤	a	④	イ	a
	7	③	4	3	⑥
	a	b	③	ロ	b
	①	⑤		ぬ	⑤
	b		問1・2 問3～問8	ハ	c
②		2点×8 3点×8	完了	②	
8				d	
⑤				③	
				e	
				①	

得点 / 50